

少子化に関する県民意識調査結果の概要

参考資料 1

○調査の概要

- 1 調査名称：令和4年度出会いから結婚・子育てまでの切れ目のない支援のための県民意識調査
- 2 調査目的：県民の皆様の考えを聞き、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援を推進していくうえでの基礎資料とする
- 3 調査対象者：18歳以上39歳までの県民4,000人（各市町村の選挙人名簿より抽出）
- 4 調査項目：
 - (1)「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について
 - (2)「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取り組みについて
 - (3) 出会い・結婚について
 - (4) 子育てについて
 - (5) 女性の活躍とワークライフバランスについて
- 5 調査の方法：郵送法
- 6 調査期間：令和4年8月29日～9月12日までの15日間
- 7 有効回収数：1,143人（有効回収率28.6%） ※郵送回答：832人 Web回答：311人
 - 性別：男性 429人（37.5%）
女性 708人（61.9%）
その他 6人（0.5%）
 - 年代別：18歳～24歳 355人（31.1%）
25歳～29歳 243人（21.3%）
30歳～34歳 286人（25.0%）
35歳～39歳 252人（22.0%）
無回答 7人（0.6%）

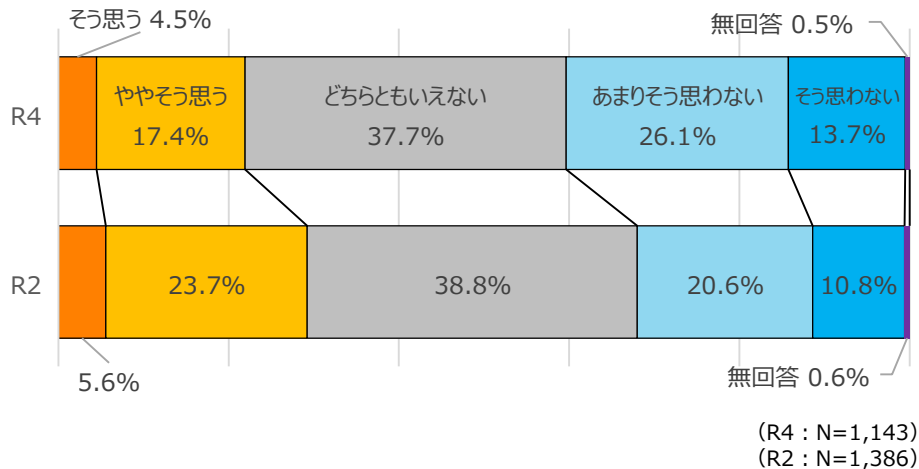
令和5年1月

高知県子ども・福祉政策部子育て支援課

調査結果の概要 ①結婚・子育ての安心感

(1) 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思う方の割合

◆「そう思う」「ややそう思う」は7.4%減、「あまりそう思わない」「そう思わない」は8.4%増

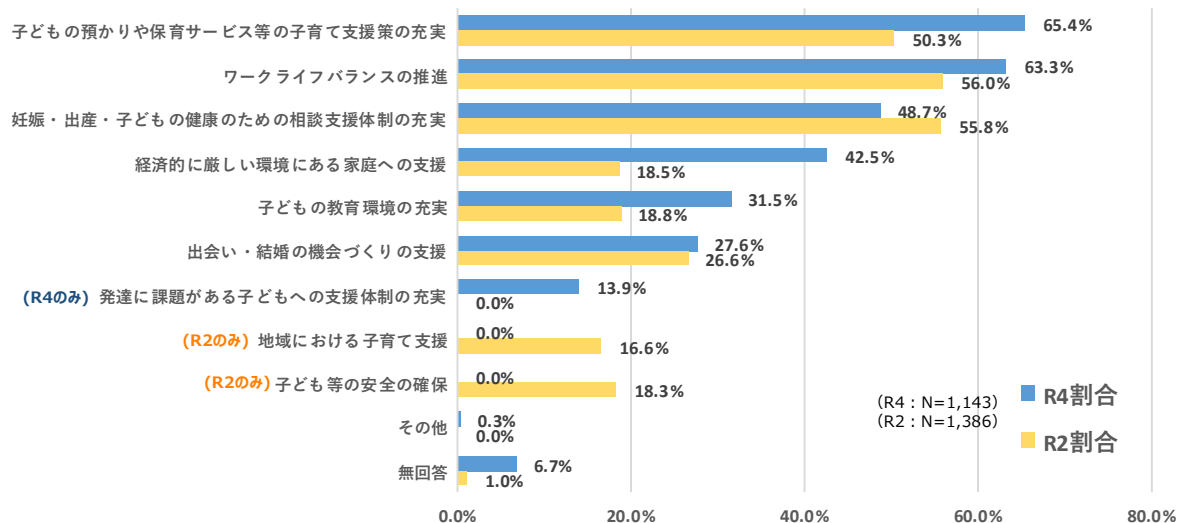


◆子どもがいない方と、子育て中の方との意識には7.5%の差

	年度	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
子どもがいない方 (N=715)	R4	3.8	16.1	41.7	23.6	14.4	0.4
	R2	4.3	19.6	43.6	21.4	10.8	0.2
子どもがいる方 (N=336)	R4	6.0	21.4	29.8	31.3	10.7	0.9
	R2	9.6	33.0	27.3	19.0	10.8	0.2

		年度	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
子どもがいる方 (参考内訳)	子ども1人 (N=116)	R4	5.2	19.0	29.3	33.6	12.1	0.9
		R2	10.5	33.6	26.3	17.8	11.8	0.0
	子ども2人 (N=143)	R4	8.4	20.3	30.1	30.1	9.8	1.4
		R2	9.0	31.1	28.8	19.8	11.3	0.0
	子ども3人以上 (N=77)	R4	2.6	27.3	29.9	29.9	10.4	0.0
		R2	9.1	36.4	26.0	19.5	7.8	1.3

(2) 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』の実現のために注力すべき施策 < 3位までの合計 >



【参考】優先順位の状況

・第1位

1	ワークライフバランスの推進
2	子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実
3	妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実

・第2位、第3位 (同順位)

1	子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実
2	ワークライフバランスの推進
3	妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実

・子どもがいない方の第1位

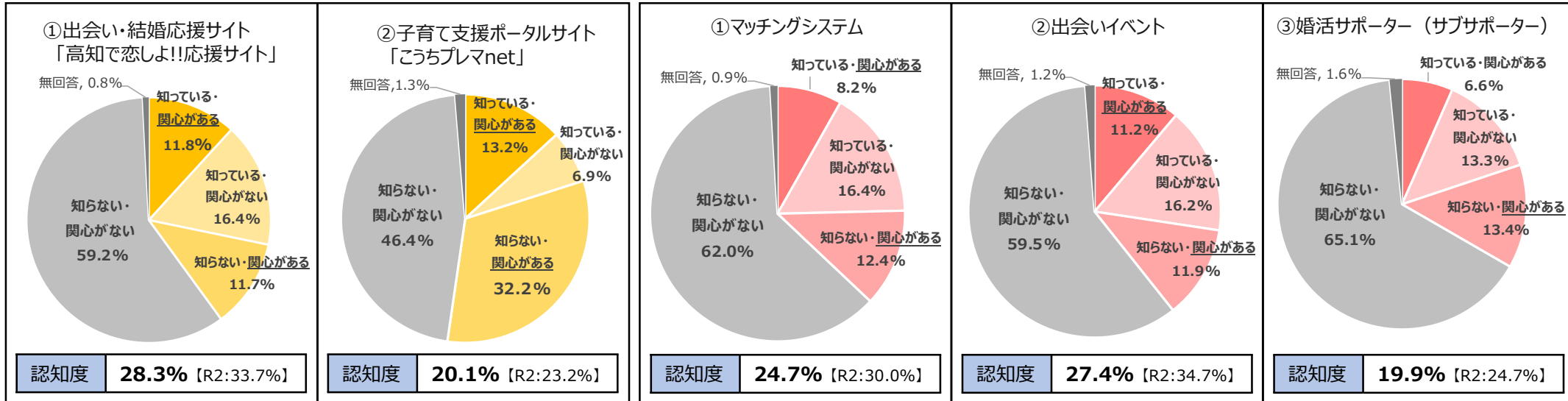
1	ワークライフバランスの推進	22.2%
2	経済的に厳しい環境にある家庭への支援	18.2%
3	出会い・結婚の機会づくりの支援	17.9%

・子どもがいる方の第1位

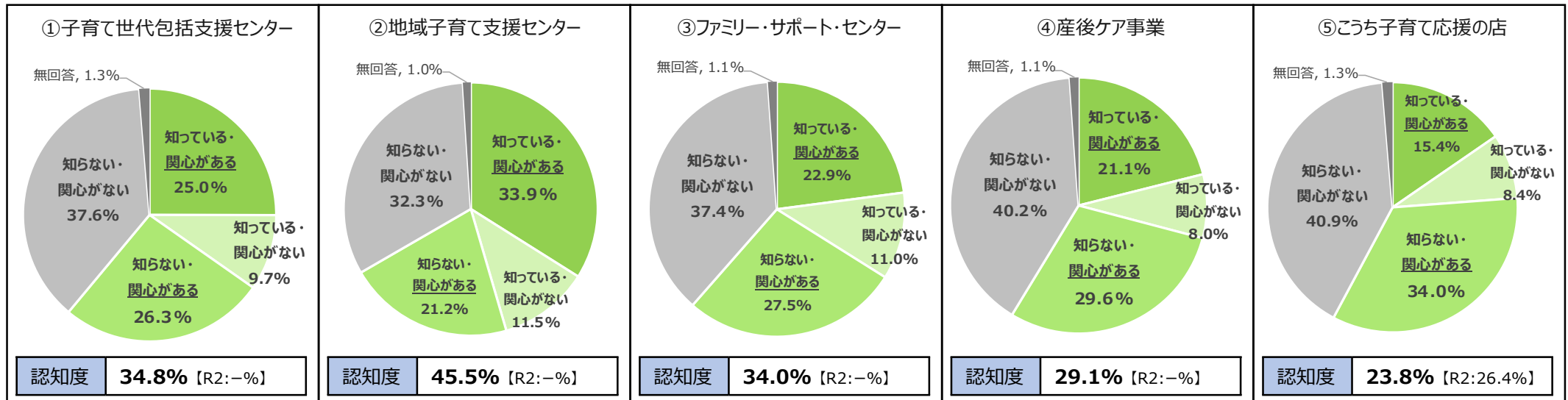
1	ワークライフバランスの推進	28.9%
2	子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実	28.0%
3	妊娠・出産・子どもの健康のための相談支援体制の充実	17.3%

調査結果の概要 ②各施策の認知度

(1) 情報発信サイト



(3) 子育て支援の取組

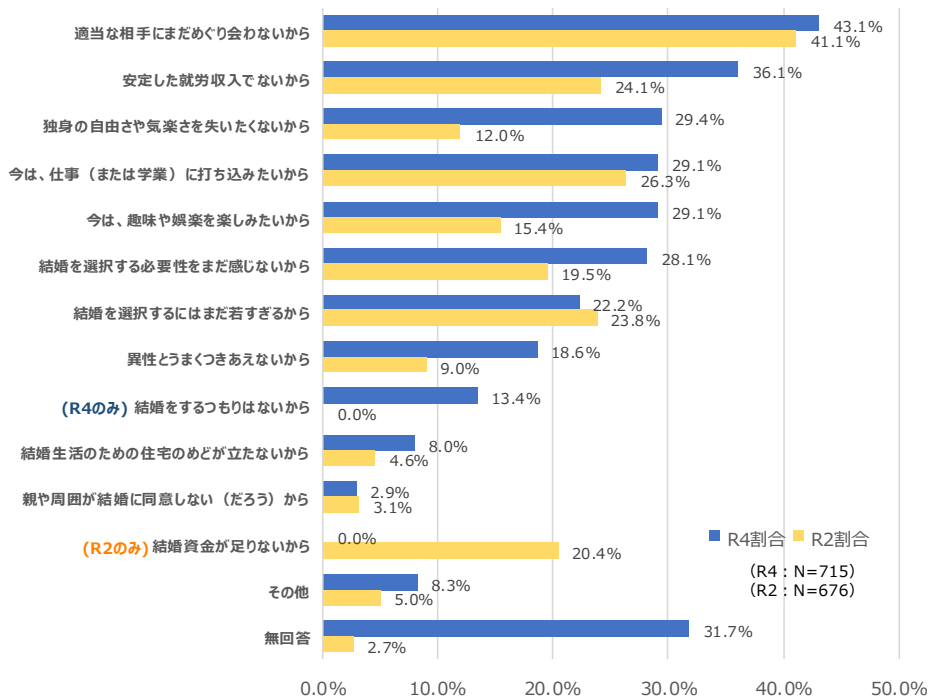


- ◆ 認知度については、前回調査から横ばい、または減少している。
- ◆ 各支援施策において、1割以上が「知らないものの関心がある」と回答しており、特に子育て支援の取組について、その割合が高くなっている。
(※調査実施時期は、出会い・結婚・子育て応援広報プロモーション開始前)

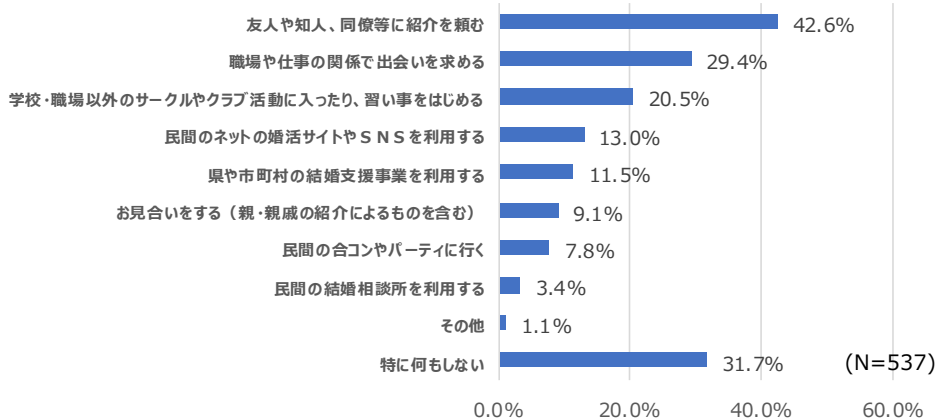
調査結果の概要 ③ 出会い・結婚について

(1) 未婚者が現時点で結婚を選択していない理由 < 3位までの合計 >

◆25歳～34歳については「適当な相手にまだめぐり合わないから」の割合が最も高い。



(2) 現在、交際相手のいない方が、出会いを求めるための行動 < 複数回答 >



◆出会いを求めるための行動として、「友人や知人、同僚に紹介を頼む」の割合が最も高く、必要な行政支援としては、金銭的支援以外では「出会いを直接の目的としない他職種での交流の機会の充実」の割合が最も高かった。

◆年代別の内訳

	適当な相手にまだめぐり合わないから	安定した就労収入でないから	独身の自由や気楽さを失いたくないから	今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから
18～24歳	38.2	32.9	18.5	39.3
25～29歳	47.0	39.0	34.1	23.2
30～34歳	55.6	39.3	41.9	15.4
35～39歳	39.1	37.9	46.0	18.4

◆「適当な相手にまだめぐり合わない」と回答した方が求める条件 < 3位まで回答 >

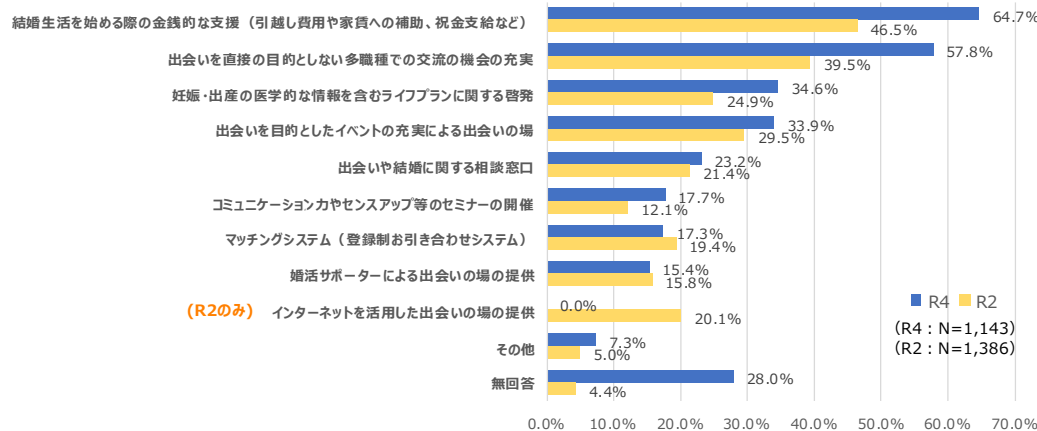
順位	条件	割合 (%)
1位	価値観が近い	58.4%
	経済力がある	9.4%
	自分の仕事への理解・協力	6.5%
2位	自分の仕事への理解・協力	18.2%
	コミュニケーション力がある	16.2%
	家事や育児に積極的	15.9%
3位	家事や育児に積極的	17.9%
	自分の仕事への理解・協力	14.3%
	共通の趣味がある	13.6%

総合	条件	割合 (%)
総合	価値観が近い	80.5%
	自分の仕事への理解・協力	39.0%
	家事や育児に積極的	36.4%

◆「結婚するにはまだ早すぎる」と回答した方の希望の年齢

希望の年齢	割合 (%)
25～28歳	54.1%
29歳	11.3%
30～32歳	16.4%
33～35歳	1.9%
35歳以上	0.6%
無回答	15.7%

(3) 出会いや結婚に関して必要だと思う行政支援 < 3位までの合計 >



調査結果の概要 ④子育てについて

(1) 理想的な子どもの数と現実的に持ちたい子どもの数 (N=1,143)

◆理想的な子どもの数(2.20人)と現実的に持ちたい子どもの数(1.85人)に0.35人の差がある。
また、令和元年度以降、現実的に持ちたい子どもの数は2.00人を下回っている。

	平均	R4	R2	R元	H30	H29	H27
理想の数	2.20	2.25	2.21	2.28	2.33	2.32	
現実の数	1.85	1.92	1.89	2.00	2.03	2.02	
差	0.35	0.33	0.32	0.28	0.30	0.30	
全国	0.24	-	-	-	-	0.88	

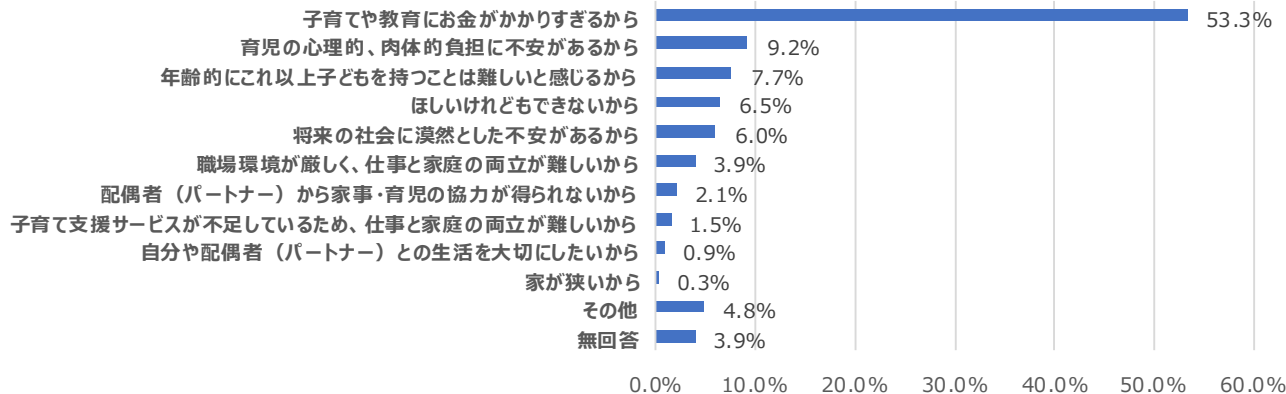
(人)

(%)

構成比	0人	1人	2人	3人	4人	その他
理想の数	6.1	7.7	51.6	30.8	3.2	0.5
現実の数	11.6	15.9	50.9	18.8	2.6	0.2
差	+5.5	+8.2	△0.7	△12.0	△0.6	△0.3

(2) 理想の数だけ子どもを持たない理由 (理想より現実の人数が少ない方) <3位まで回答> (N=1,143)

「1位」の選択割合



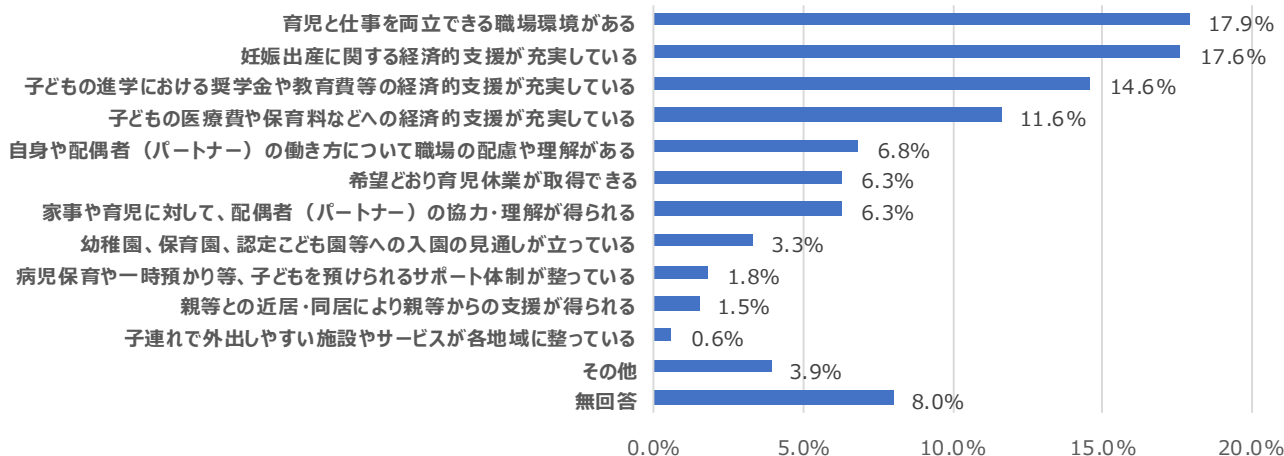
◆「理想の数だけ子どもを持たない理由」として、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高い。

【参考】全順位合計の選択割合

1位	子育てや教育にお金がかかりすぎる	81.0%
2位	育児の心理的、肉体的負担に不安	42.0%
3位	将来の社会に漠然とした不安がある	39.9%
4位	職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しいから	30.1%
5位	子育て支援サービスが不足しているため、仕事と家庭の両立が難しいから	23.5%

(3) 理想の数だけ子どもを持つことが可能と考えられる環境 (理想より現実の人数が少ない方) <3位まで回答> (N=1,143)

「1位」の選択割合



◆「理想の数だけ子どもを持つことが可能と考えられる環境」として、「育児と仕事を両立できる職場環境」の割合が最も高い。

【参考】全順位合計の選択割合

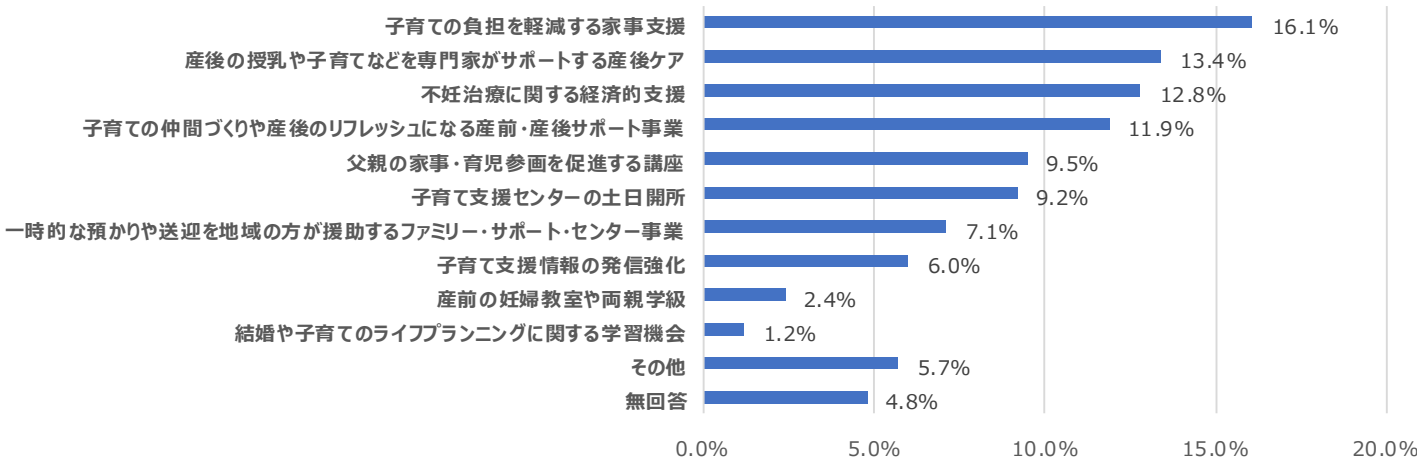
1位	子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している	47.0%
2位	子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している	45.5%
3位	育児と仕事を両立できる職場環境がある	43.5%
4位	妊娠出産に関する経済的支援が充実している	36.3%
5位	自身や配偶者（パートナー）の働き方について職場の配慮や理解がある	22.0%

調査結果の概要 ⑤ 子育て支援について

(1) 妊娠期から乳幼児期において充実してほしい支援（子育て中の方）＜3位まで回答＞（N=336）

◆「子育ての負担を軽減する家事支援」の割合が最も高く、次いで「産前・産後サポート事業」の割合が高い。

「1位」の選択割合



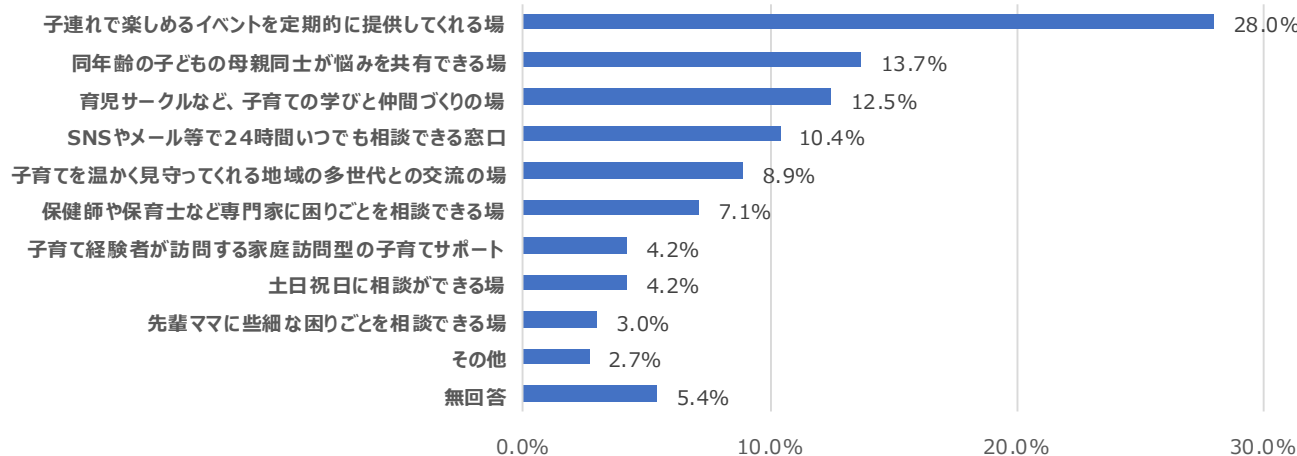
【参考】全順位合計の選択割合

1位	子育ての負担を軽減する家事支援	39.9%
2位	仲間づくりやリフレッシュになる産前・産後サポート事業	37.5%
3位	産後の授乳や子育てなどを専門家がサポートする産後ケア	36.0%
4位	子育て支援センターの土日開所	31.8%
5位	父親の家事・育児参画を促進する講座	28.0%

(2) 子育ての孤立や孤独感を防ぐ身近な地域のサポート（子育て中の方）＜3位まで回答＞（N=336）

◆「子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場」の割合が最も高く、次いで「同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場」の割合が高い。

「1位」の選択割合



【参考】全順位合計の選択割合

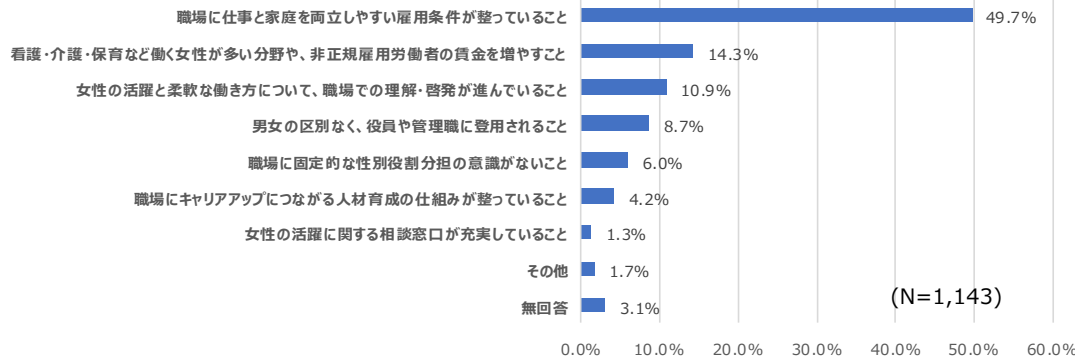
1位	子連れで楽しめるイベントを定期的に提供してくれる場	59.8%
2位	同年齢の子どもの母親同士が悩みを共有できる場	47.0%
3位	SNSやメール等で24時間いつでも相談できる窓口	36.3%
4位	育児サークルなど、子育ての学びと仲間づくりの場	32.1%
5位	保健師や保育士など専門家に困りごとを相談できる場	26.2%

調査結果の概要 ⑥ワークライフバランスについて

(1) 女性が職場で活躍していくために必要なこと < 3位まで回答 >

◆「仕事と家庭を両立しやすい雇用条件」の割合が最も高く、女性の半数以上が1位に選択している。

「1位」の選択割合



女性

男性

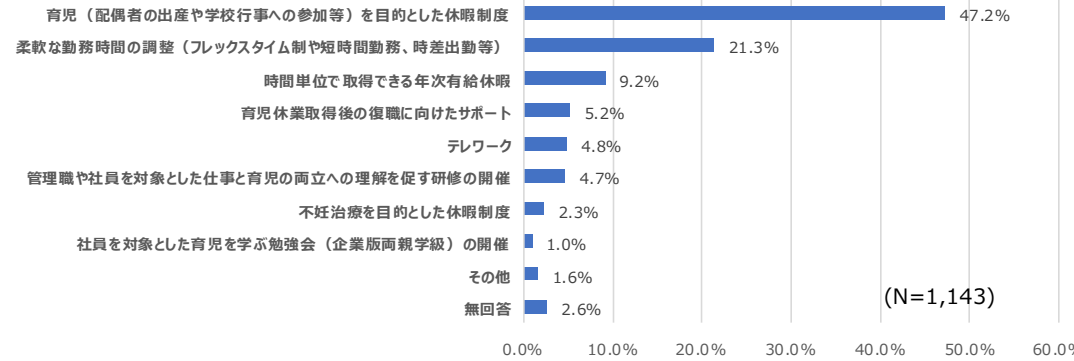
1位	仕事と家庭を両立しやすい雇用条件	51.3%
2位	職場での理解・啓発が進んでいる	28.5%
3位	職場での理解・啓発が進んでいる	21.6%

1位	仕事と家庭を両立しやすい雇用条件	47.1%
2位	職場での理解・啓発が進んでいる	20.5%
3位	職場での理解・啓発が進んでいる	21.7%

(2) 働きながら子育てしやすい職場環境づくりに必要な支援 < 3位まで回答 >

◆「育児を目的とした休暇制度」の割合が最も高く、男女とも1位となっている。

「1位」の選択割合



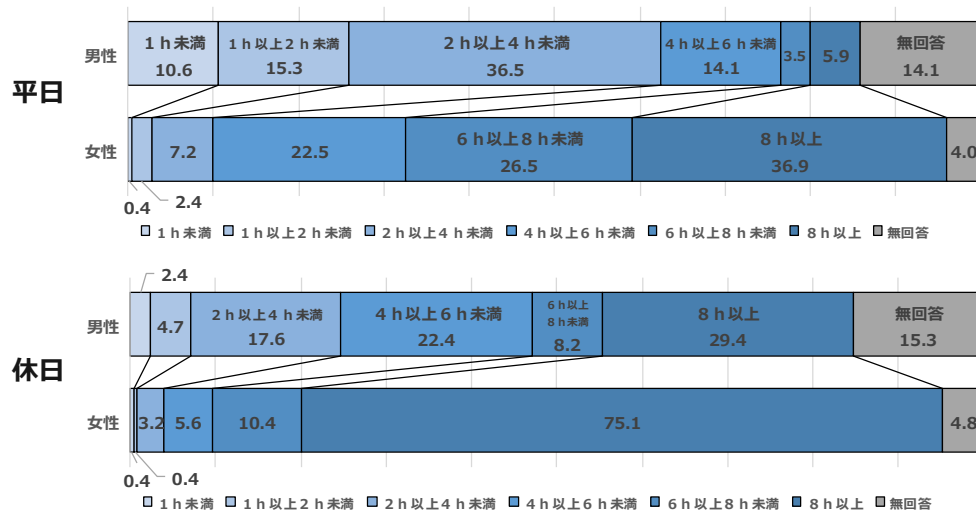
女性

男性

1位	育児を目的とした休暇制度	47.7%
2位	柔軟な勤務時間の調整	28.5%
3位	育児取得後の復職に向けたサポート	19.9%

1位	育児を目的とした休暇制度	46.4%
2位	柔軟な勤務時間の調整	20.5%
3位	育児取得後の復職に向けたサポート	20.3%

(3) 1日あたりの家事・育児時間（子育て中の方） (N=336)



(4) 男性の育児休業取得率向上のために必要な職場支援

1位	上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ	40.0%
2位	休業中の収入を補填する制度	34.5%
3位	上司・管理職等を対象とした研修の開催	8.1%
4位	企業のトップや経営者による取得を後押しするメッセージの発信	5.0%
5位	社内または他社での取得事例や体験談の紹介	3.3%

(N=1,143)

◆男性の育児取得率向上のために必要な職場支援について、「上司等から積極的な取得を促す声かけ」の割合が最も高い。
 ◆男性の家庭・地域参画の推進について、「男性自身の意識を啓発するセミナー」があつたら良いとする割合が最も高い。

(5) 男性の家庭・地域参画を進めるためにあつたら良いと思う取組

1位	家事・育児参画に関する男性自身の意識を啓発するセミナー	22.0%
2位	職場で仕事と育児の両立や家事・育児スキルを学ぶことができる場	18.5%
3位	父親同士が交流できる仲間づくりの場	14.2%
4位	男性が家事・育児の悩みを相談しやすい窓口があること	10.0%
5位	家事分担や家事共有アプリの普及	8.5%

(N=1,143)